



# 蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 50

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



**懐かしの1枚**  
二ノ宮村役場  
昭和25(1950)年頃  
高瀬町

二ノ宮村役場の建物は、主要地方道善通寺大野原線の旧道(二ノ宮農業構造改善センターの東側を通る道)沿いに現存している(現在は個人宅)。明治21(1888)年に公布された「市制・町村制」により明治23(1890)年に二ノ宮村が成立するが、二ノ宮村役場が落成するのは明治35(1902)年のことである。昭和初期に、写真の建物に建て替えられたという。

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】

## 「想い出の1ページ」

「この写真は昭和25年頃、写真右端の男性のカメラを借りて私が撮影したものです」と話すのは、当時村役場で働いていた山路恒利さん(85)。

「昭和20年の春、戦争が最も激しいとき、私は14歳で村役場に採用されました。役場には15人ほどが働いており、ほとんどが女性。主に戸籍や住民票の発行、食糧の配給などを行っていましたね。」

屋根の上に小さな矢倉のようなものが見えるでしょう。これは空襲警報のサイレン。鉄は戦争に使うからと、鉄塔からサイレンだけを外して役場の屋根に移したんです。私の最初の仕事は、このサイレンを鳴らすこと。鳴らすのは警戒警報、空襲警報、空襲警報解除の3種類で、音の長さが違っていました。この時代は、昼も夜も、いつ来るかわからない空襲に怯えながら緊張の連続でした」と、当時を振り返ります。

「写真の男性の背後に映っている石碑は、農地改革が終了したときに建てた記念碑です。GHQの命令で行われた農地改革では、地主、小作、自作で構成された農地委員の方々が東奔西走、とても苦労されました。その甲斐あって、県内でも早くに改革を終えました。このとき

のことは今も記憶に強く残っています。その後、高瀬町となり、役場の建物は個人に払い下げられ、石碑は今、二ノ宮公民館に移されています」

また、山路さんには忘れられない木があると言います。「村役場の中庭にバベの木が植わっていました。樹齢約80年の古い木で、幼いころからよく眺めた愛着のある木でした。剪定や水やり、防除などの世話をよくしていましたね」

今、市役所の玄関脇に古い姥女うばめがし樞しがあります。この木こそ山路さんが苦楽を共にした思い出の木。明治から平成まで、世の移り変わりを知る木は、場所を移し、さらに70年の時を経た今も、私たちを静かに見守っています。



## 編集 後記

「二十歳のころ、あなたの夢は何でしたか?今回、5人の新成人と一緒に、彼らが抱く夢をすでに叶えた先輩に話を聞きました。仕事に打ち込む先輩の話に熱心に聞き入る新成人。ここでの出会いが彼らの背中を押して、夢を叶える一助になることを強く願います。」